

さきたま古墳群 その3





「埼玉県立さきたま史跡の博物館 ガイドブック」より

二子山古墳

二子山古墳が見えてくる







# 二子山古墳

全長138mの前方後円墳です。かつての「武蔵国」(埼玉県、東京都、神奈川県の一部にあたる)で最大の古墳です。

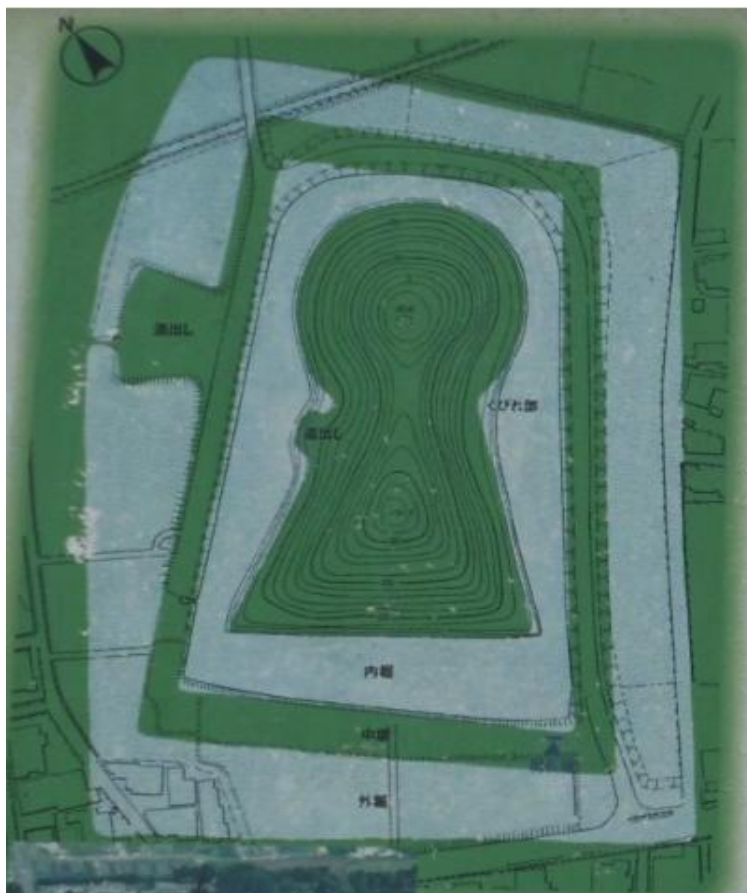
周囲には、長方形の堀が中堀をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堀には造出しと呼ばれる張出しがあります。現在遊歩道になっている高まりが中堀にあたります。内堀は、今は水堀になっていますが、古墳が築造された当時は水はなかったと考えられています。

本格的な発掘調査はされていないため、埋葬施設の形や大きさ、副葬品の内容など、詳しいことはまだわかっていません。出土した埴輪の形から、古墳の造られた時期は、6世紀初め頃と推定されています。

平成20年(2008年)3月 埼玉県教育委員会

## Futagoyama Kofun

The burial mound is 138 meters in length with a 2 rectangular shaped moats around its perimeter. Futagoyama Kofun is the largest of all tumuli at Sakitama Ancient Burial Mounds. This is estimated to have been created at the beginning of the 6th century. At present the inner moat contains water however it is thought that at the time the burial mound was created the moat was dry.



空から見た二子山古墳



二子山古墳  
 全長138mの前方後円墳  
 かつての「武蔵国」(埼玉県、東京都、神奈川県の一部にあたる)で最大の古墳  
 周囲には、長方形の堀が中堀をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堀には造出しと呼ばれる張出しがあります。現在遊歩道になっている高まりが中堀にあたります。内堀は、今は水堀になっていますが、古墳が築造された当時は水はなかったと考えられています。  
 本格的な発掘調査はされていないため、埋葬施設の形や大きさ、副葬品の内容など、詳しいことはまだわかっていません。出土した埴輪の形から、古墳の造られた時期は、6世紀初め頃と推定されています。



中堤に沿って反時計回りに歩く







歩いて来た方向を振り返る













将軍塚古墳

次に将軍山古墳に向かう







# 将軍山古墳

全長90mの前方後円墳です。明治27年(1894年)に横穴式石室が発掘され、多数の副葬品が出土しました。この石室には、千葉県富津市付近で産出する「房州石」が用いられており、古墳時代の関東地方における地域交流を考える上で重要な古墳です。

周囲には長方形の堀が中堤をはさんで二重に巡り、後円部と中堤には造出しと呼ばれる張り出しがあります。稲荷山古墳・二子山古墳と同じ形態です。古墳の造られた時期は、出土した遺物から6世紀後半と推定されています。

平成21年(2009年)3月 埼玉県教育委員会

## Shogunyama Kofun

This is a 90 meter long keyhole shaped tumulus surrounded by a rectangular double moat. At the center and end of the tumulus is a "tsukuri-dashi" mound of earth. The stone chamber is built from stones from Chiba Prefecture. This tumulus (kofun) is estimated to have been built in the latter half of the 6th century.











将軍山古墳展示館

入口 →

← 駐車場

この山古墳は、国史跡指定の  
将軍山古墳群に属する古墳  
群です。ご注意ください。

将軍山古墳には登れません



これが将軍山古墳展示館







將軍山古墳展示館



くびれ部に造出しが見える



稲荷山古墳から將軍山古墳を見る



# 将 軍 山 古 墳 I

— 1400年の時をこえて、今よみがえる！ —

埼玉県立さきたま史跡の博物館



將軍山古墳は1894年(明治27年)に、地元の人々によって発掘され、多くのすぐれた副葬品が出土したことで知られていました。しかし、墳丘の半分が失われ崩壊の危険がでてきたことから、古墳を保護するとともに、將軍山古墳の重要性が実感できるような復原整備を行いました。

全国に大きな盛り土をした墓＝古墳が多く築かれた西暦3世紀後半から7世紀までを、古墳時代とよびます。將軍山古墳は6世紀後半に築かれたもので、大陸や朝鮮半島の進んだ技術が次々ともたらされていた時期にあた

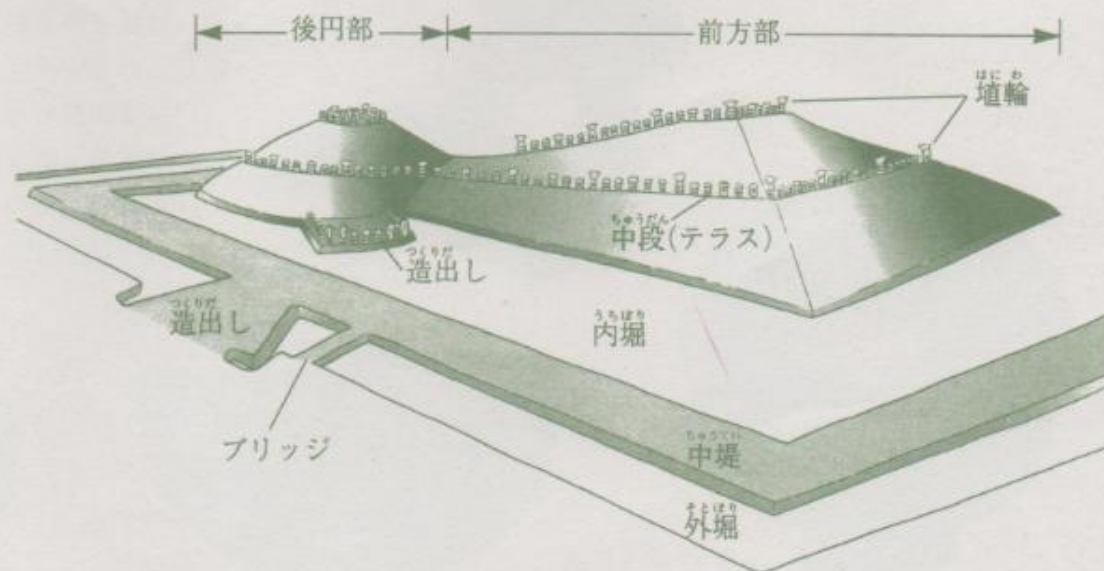


ります。この少し前には大和に仏教も伝えられています。將軍山古墳の副葬品にも、そのような国際色豊かなものが含まれ、当時の文化水準の高さを示しています。

## 《古墳の形と大きさ》

墳丘の全長は90m、埼玉古墳群内では4番目、埼玉県内では9番目に大きな前方後円墳です。墳丘は2段になっていて、中段部や頂上には埴輪が並べられていました。展示館の1階には墳丘の土層パネルがありますが、これを見ると、黄色い土と黒っぽい粘土を交互に突き固めた「版築」という技法で、墳丘がもられたことがわかります。後円部の西側には造出しとよばれる扇形の壇があり、周辺から土器や形象埴輪が多く出土することから、死者に対する「まつり」を行ったところと考えられています。

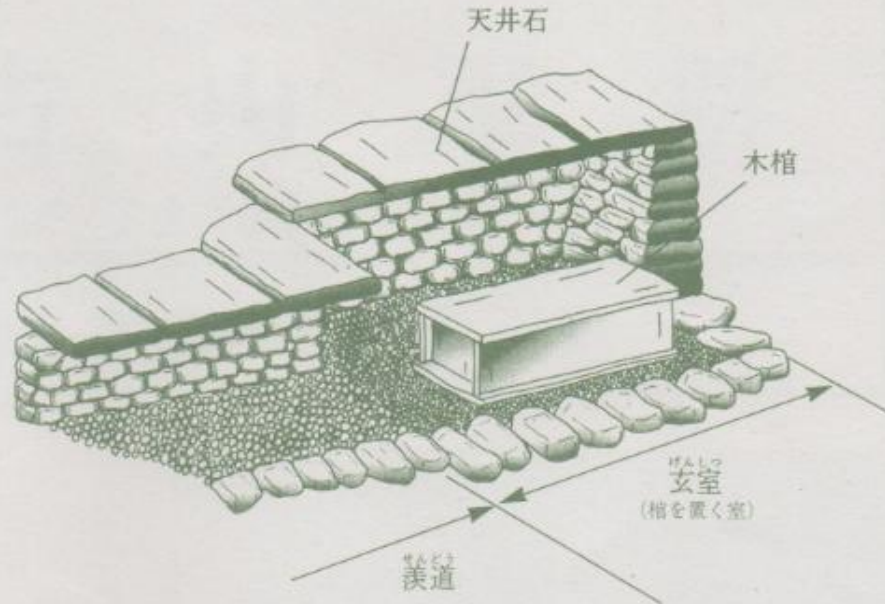
墳丘のまわりには堀が二重に巡っています。埼玉古墳群の前方後円墳は長方形の堀が巡りますが、將軍山古墳では今のところ正確な形はわかりません。また、内堀と外堀の間の中堤にも、墳丘と同じように造出しがありますが、ここも何かの儀式を行った場所と考えられています。これは埼玉古墳群だけで見られる特殊な場所です。



### 《新しい時代の予感—横穴式石室》

後円部の中央には、遺体と副葬品が納められていた「横穴式石室」がありました。日本の古い古墳では堅穴を掘って遺体を安置する方法がとられていました。稲荷山古墳の礫擲もその1つです。しかし、4世紀ころ朝鮮半島では横から出入りできる構造の石室が築かれるようになり、それが日本にも伝わってきました。1つの石室でも後から何人もの遺体を納められる合理的なもので、埋葬に対する思想の変化を生み出しながら、急速に広まっていきました。埼玉古墳群の中では、現在のところ、横穴式石室の採用がわかっているのは將軍山古墳だけです。石材は120kmも離れた千葉県富津市の海岸で採取された「房州石」や、荒川上流の緑泥片岩が使われていました。

展示館 2 階には残っていた石室の実物を、一部石材を補充して展示しています。築造当時は、人が立って歩けるくらいの高さまで壁があり、天井が架けられていました。



### 將軍山古墳のおもな副葬品

### 《渡来文化の香りただよう副葬品》

將軍山古墳が築かれた6世紀後半、有力者の古墳には渡来文化の影響を受けた華やかな装身具や



① 大刀の柄に付く飾り  
(環頭大刀柄頭)



② 馬に下げる飾り  
(杏葉)



③ 銅製鈴



④ 馬の冑



⑤ 蓋付きの銅鉢



⑥ 銅鉢

大刀、馬具などが副葬されました。

將軍山古墳からは馬の冑や馬に旗をたてるための「旗ざお金具」など、朝鮮半島から直接輸入されたものも出土しています。1894年の発掘当時の記録がないので、石室内にどのようなならべられていたのかはわかりません。しかし、耳飾りや馬具、甲などが2セットあることから、2人の埋葬が行われたと想像されます。

展示館の石室には、2人目の埋葬状態を再現しています。1人目の副葬品は、すでに石室の隅に片付けられているようすを想定しています。棺の中には装身具を付けた遺体とともに、鏡や大刀が納められています。石室の奥には甲や冑、その手前には金銅製の馬具一式がおかれています。棺の前の銅鉢や土器には死者に捧げた食物などが盛りつけられていたのでしょうか。

①②は東京国立博物館、③⑤⑥は  
東京大学総合研究博物館、④は埼  
玉県立さきたま史跡の博物館

埼玉県立さきたま史跡の博物館



稲荷山古墳

いよいよ稲荷山古墳へと向かう



前方があの稲荷山古墳





# 稲荷山古墳

全長120mの前方後円墳です。周囲には長方形の堀が中堀をはさんで二重に巡り、墳丘くびれ部と中堀には造出しと呼ばれる張出しがあります。古墳が造られた時期は、5世紀後半ごろと考えられ、埼玉古墳群の中で最初に造られた古墳です。

前方部は、1937年に土取り工事で失われましたが、2004年に復原されました。

1968年の発掘調査では、後円部から二つの埋葬施設が発見されました。そのうち礫槨はよく残っており、多くの副葬品が出土しました。その一つである鉄刺からは、1978年に115文字の銘文が見出され、他の副葬品とともに1981年に国宝に指定されています。

平成19年(2007年) 埼玉県教育委員会

## Inariyama Kofun

The tumulus (*kofun*), which totals 120 meters in length, is surrounded by two rectangular moats. This is considered to be the earliest of a series of *kofun* built in Sakitama Ancient Burial Mounds, and is believed to have been created in the mid to late 5th century. The front portion of *kofun* was lost in 1937 however in March 2004 it was reconstructed.



前方部復原前の姿

0 50m

復原前方部

稲荷山古墳の前方部は、1937年に土取り工事で失われましたが、2004年に復原されました。この復原は、発掘調査の結果に基づいて行われました。前方部には、埋葬施設や副葬品が出土したとされています。

ここは登れます



前方部から後円部を見る



後円部から前方部を見る

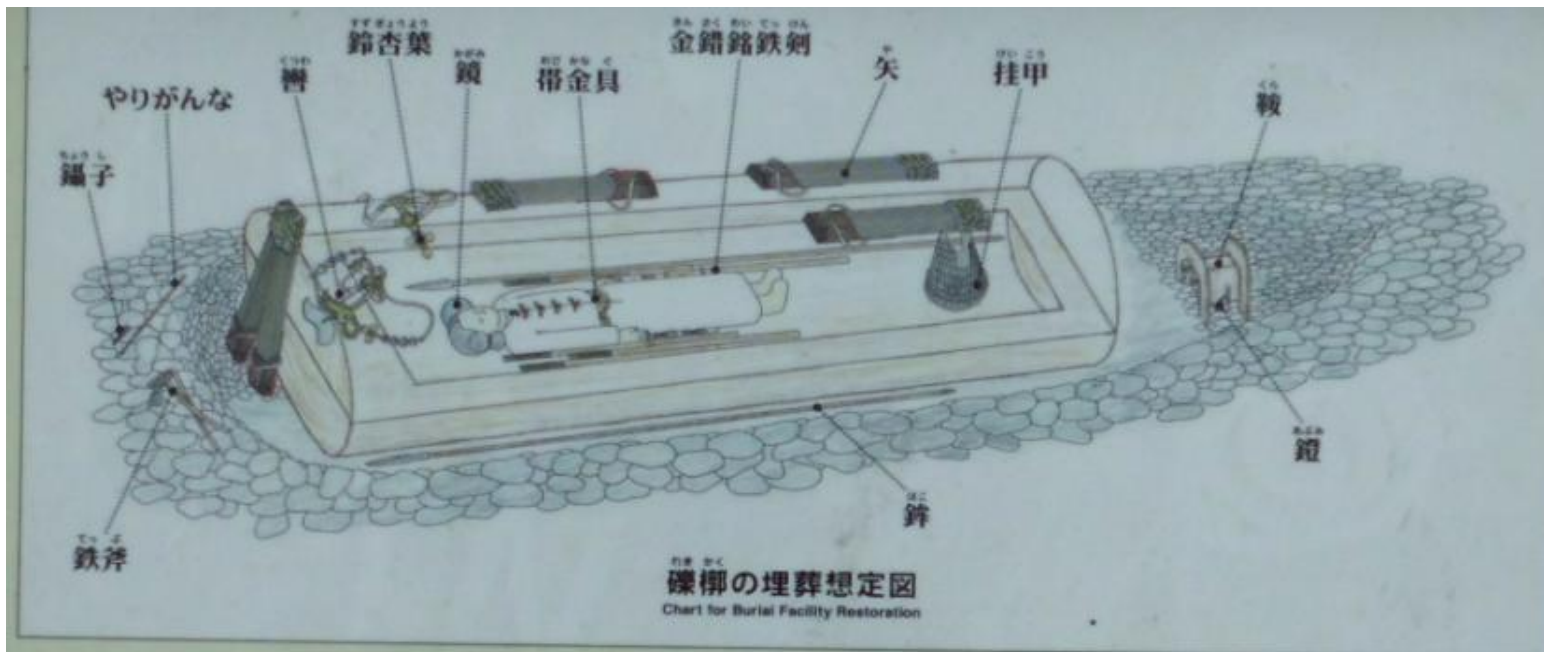


礫檣(れきかく)









## 稲荷山古墳の埋葬施設

1968年の発掘調査で、後円部の頂上から二つの埋葬施設を発見しました。一つは素掘りの竪穴で、粘土を敷いた上に棺を置いた粘土柳、もう一つは、船形に掘った竪穴に川原石を貼り付けて並べた上に棺を置いた礫柳です。

粘土柳は、掘り荒らされていて遺物はわずかでしたが、礫柳からは、金錯銘鉄剣をはじめとする豊富な副葬品が出土しました。それらは博物館に展示されています。

稲荷山古墳を下りる







稲荷山古墳の

# 国宝

きん さく めい てつ けん  
金 錯 銘 鉄 剣

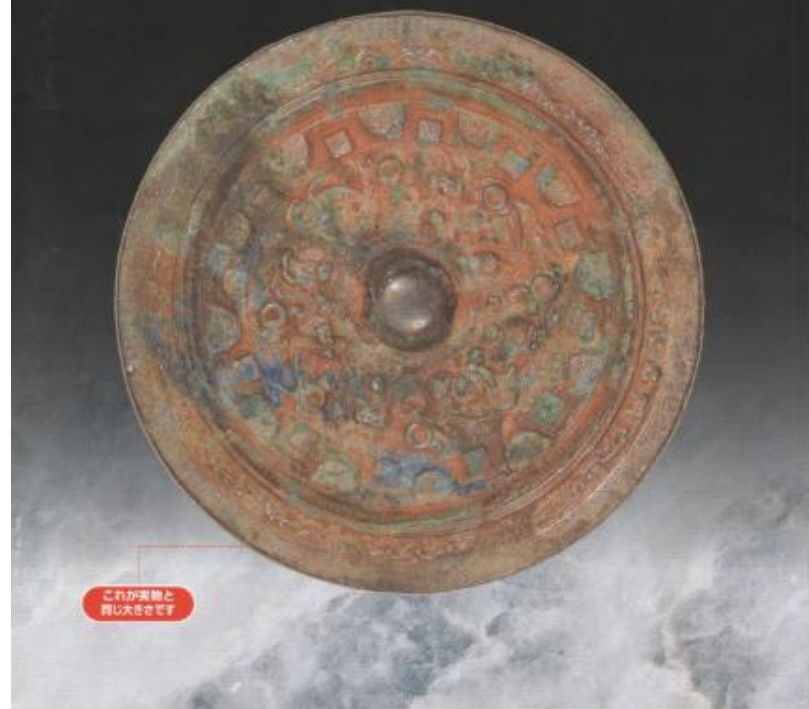


これが実物と  
同じ大きさです

稲荷山古墳の

# 国宝

が もんたいかんじょうにゅうしんじゅうきょう  
画文帯環状乳神獸鏡



これが実物と  
同じ大きさです

いなりやまこふん こくほう 稲荷山古墳の国宝 **金錯銘鉄剣**

発掘調査で礫櫛・粘土櫛から出土した稲荷山古墳の副葬品\*を昭和53年（1978）に保存処理の作業を行いました。鉄剣のレントゲン写真を撮影すると、剣身の両面に金象嵌\*\*の文字が刻まれていることがわかりました。古墳時代の金石文\*\*\*としてはこれまでに最も字数の多い115文字が刻まれ、歴史的価値の高い内容をもっていました。

銘文が発見されたことにより、昭和58年、この剣を含めた稲荷山古墳の礫櫛・粘土櫛の出土品のすべてが国宝に指定されました。

銘文には、刀を作らせたヲワケという人物の「上祖」（先祖）からの8代にわたる系譜と、ヲワケがヤマト王権の中心である大王家（後世の天皇家の前身）に先祖代々仕え、国を治めるのを助けてきたことを誇るために刀を作らせて、文字を記したことが書かれています。

銘文の読み方には、①「辛亥年」は西暦471年か531年か、②ヲカタケル大王は雄略天皇か欽明天皇など、多くの点について論争があります。現在では稲荷山古墳が造られた年代を5世紀後半から末あたりと考えるのが普通なので、①は471年、②は雄略天皇と考える専門家が多いようです。

\*副葬品……古墳など墓の中に、遺体に添えて置かれる装身具や武器・宝器などのこと。

\*\*金象嵌……金属や石などの表面に溝や穴を彫り、その中に別の石や金属を埋め込んで装飾することを象嵌と言います。金を埋め込んだ象嵌が金象嵌です。

《銘文の読み下し》

（表面）辛亥の年七月中記す。乎獲居の臣。上祖、名は意富比埴、其の児、獲居、其の児、名は多加披次獲居、其の児、名は多沙鬼獲居、其の児、名は（裏面）其の児、名は加差披余、其の児、名は乎獲居の臣。世々杖刀人の首支爾大王の寺、斯鬼の宮に在る時、吾天下を左治し、此の百練の利刀を作ら

《銘文を今のことばで書くとこうなります》

（表面）辛亥の年七月中に書きます。（私の名前は）ヲワケの臣。遠い先祖の力りのスクネ、その子の名前はテヨカリワケ、その子の名前はタカヒシワケ名前はハテヒ、  
（裏面）その子の名前はカサヒヨ、その子の名前はヲワケの臣です。先祖代に至るまでお仕えしてきました。ワカタケル大王の朝廷（住まい）が、シエ下を治めるのを助けました。何回もたいて鍛えあげたよく切れる刀を作らえた由緒を書き残しておくものです。

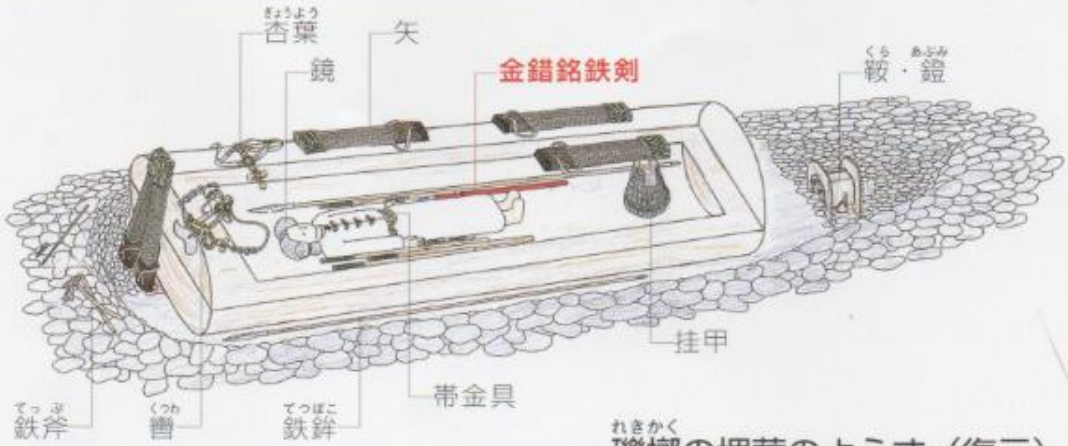
多加利の足尼、其の児、名は、弓已加利  
 弓と為り、奉事し来たり今に至る。獲加多  
 つしめ、吾が奉事の根源を記す也。

その名前はオホヒコ、その子（の名前）はタ  
 ノ、その子の名前はタサキワケ、その子の  
 ハヤ杖刀人首（大王の親衛隊長）として今  
 十の宮におかれている時に、私は大王が天  
 につけて、私と一族のこれまでの大王にお仕

\*\*\* 金石文……石碑や石製品、金属製品などの遺物に刻まれた文字・文章のこと。

\*\*\*\* 神仙……古代中国の神話で天と地を司ると考えられている神様のこと。東王父・西王母・伯牙彈琴・黃帝などがある

\*\*\*\* ヤマト王権……古墳時代の日本列島全体を治めていた豪族の集団のこと。本拠地が奈良盆地から大阪平野の間に設置されていたと考えられているため、奈良盆地全体を総称して呼ぶ地名「やまと」を使って、「ヤマト王権」と呼ぶ。この集団のリーダーが「大王」で、奈良時代以降の「天皇」の前身。古くは「大和朝廷」「大和政権」とも呼ばれた。



れきかく 磯槲の埋葬のようす（復元）

埼玉県立さきたま史跡の博物館

〒 361-0025 行田市大字埼玉 4834 TEL 048-559-1111



が もんたい かんじょうにゅうしんじゅうきょう  
**画文帯環状乳神獸鏡**

磯部から出土した副葬品の中に鏡一面があります。鏡の文様から「画文帯環状乳神獸鏡」と呼ばれています。鏡の外区（外側）には竜・亀・虎などが表された「画文帯」がめぐり、内区（内側）には8個の丸い突起（環状乳）と竜・虎と神仙\*\*\*\*が描かれています。獣と神仙を組み合わせた文様を内区に表す鏡を「神獸鏡」と呼びます。

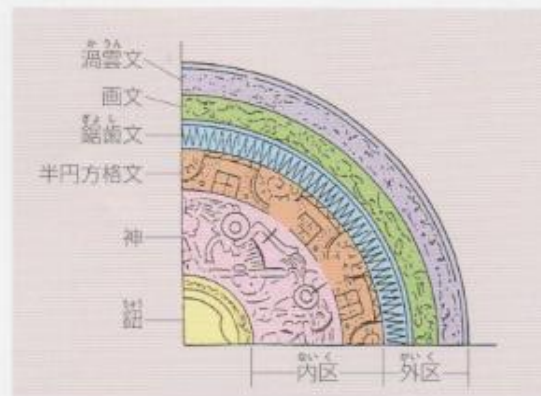
稻荷山と同じ形の鏡が東は群馬県、西は宮崎県まで5か所の古墳から1面ずつ見つかっています。いずれも5世紀後半から6世紀初めころにつくられた古墳です。神獸鏡は弥生時代の終わり（3世紀）から古墳時代の初め（4世紀）、後漢末から晋の時代の中国でつくられたと思われます。

鏡を出土した古墳の分布は、古墳時代半ば過ぎの地方豪族と中央との関係を示すものです。関東、中部、九州の豪族がヤマト王権\*\*\*\*\*の本拠地に出向き、軍人である「杖刀人」や文官である「典曹人」として、大王家に仕えるようになりました。それらの任務に応じて、同じ形の鏡を大王家から分け与えられたと思われます。

りゅうもんすかしほりおびかなぐ  
**竜文透彫帯金具**

磯部に葬られた人物は、耳に細い銀のイヤリングをして、首にはヒスイの勾玉を下げ、腰には鈴つきの金銅製の帯金具で飾られた布ベルトをつけていました。

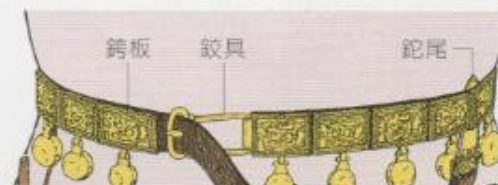
帯金具は留め金具の役目をする「鉸具」、布ベルトの上に竜を透彫りした金属板をかぶせた「銚板」、端につける「鉈尾」からなります。鉸具はベルトを留める刺金がなくなっています。銚板は16枚あったと思われ、その数からベルトの長さは120cmくらいになります。竜の透かし彫りは頭を左に向け、左右の前足と後ろ足が描かれています。布ベルトをはさむ表裏2枚の銅板は、四隅など6か所を鉄でとめ、さらに鈴を下げています。



鏡の文様の名称



稲荷山古墳と同じ鏡の分布



5世紀後半から6世紀初めころの地方豪族は、冠、<sup>カサ</sup>帯金具、履など金色に輝く装身具を身につけて葬られました。稲荷山と同じころにつくられ、銀象嵌の大刀銘文で知られる熊本県江田船山古墳出土品には、冠、帽子、耳飾り、首飾り、帯金具、履など一通りの装身具がそろっています。こうした装身具類はほとんど中国や朝鮮半島から輸入されたようです。



稲荷山古墳の帯の復元



## 丸墓山古墳

正面が円墳の丸墓山古墳(手前の円形の植え込みは「小円墳群跡」を示している)



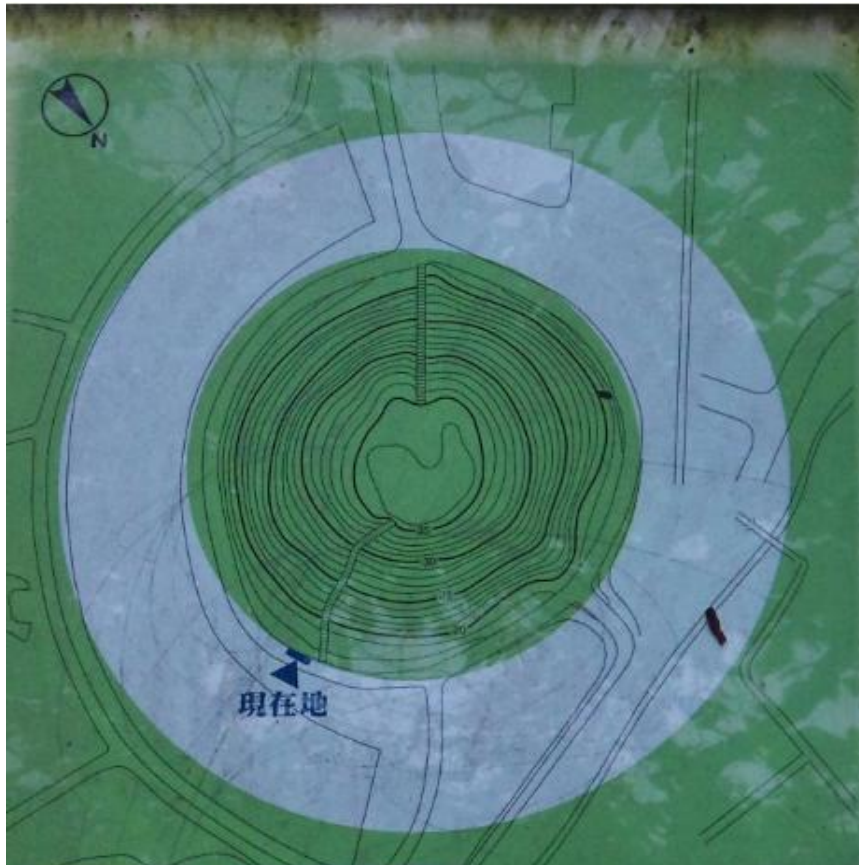






ここも登れます





現在地



空から見た丸墓山古墳

0 30m

## 丸墓山古墳

直径105mあり円墳では日本最大です。墳丘は埼玉古墳群の中で一番高く、約19mあります。墳丘に使われた土の量は二子山古墳より多かったという試算もあります。出土した埴輪から、6世紀前半ごろに築かれたと推定されています。埋葬施設の内容は、現在のところ確認されていません。

南側から古墳にいたる道は、1590年に石田三成が忍城を水攻めにした時に築いた堤防の跡といわれている「石田堤」です。水攻めの際には、古墳の頂上に陣が張られました。

平成19年(2007年) 埼玉県教育委員会

### Maruhakayama Kofun

With a diameter of 105 meters, this is Japan's largest circular *kofun*. The 19m high of the *kofun* is the highest of all tumuli in Sakitama Ancient Burial Mounds. The volume of earth used in its construction is thought to exceed the volume of earth used at the *Futagoyama kofun*. It is estimated that this particular *kofun* was built around the first half of the 6th century.

丸墓山古墳  
 直径105メートルあり円墳では日本最大です。  
 墳丘は埼玉古墳群の中で一番高く、約19メートルあります。  
 墳丘に使われた土の量は二子山古墳より多かったという試算も  
 あります。出土した埴輪から、6世紀前半ごろに築かれたと推定  
 されています。埋葬施設の内容は、現在のところ確認されてい  
 ません。





丸墓山古墳の頂上





ここから忍城が見えたという



「小円墳群跡」も見える



丸墓山古墳を下りる/手前の道が「石田堤」の跡

